

年月日	事業名	開催地	備考
39.10.30	蔵書目録「佐藤文庫篇」発注	県立図書館	蔵書目録「佐藤文庫篇」1000部 発注先 大盛堂
39.11.14 15	第10回地方史研究講習会	県立図書館	第3読書室において 議題 1「福島県史および市町村史編さんの諸問題」 福大教授 庄司吉之助 2「近世資料の取り扱い方」 福大助教授 小林清治 その他事例報告等
39.11.27	図書館教養講座(第4回)	県立図書館	第3読書室において 演題 1 鴈外と福島～「山椒大夫」と「伊沢蘭軒」に関連して 講師 清野 彦吉 2 戦後福島の文壇 講師 宗像喜代次
39.12.1	日曜休館実施	県立図書館	福島県立図書館利用規則一部改正施行 福島県立図書館処務規程一部改正施行
39.12.10	図書館協議会(第3回)	県立図書館	協議および報告事項 1 図書館利用規則の一部改正について 2 昭和40年度予算要求の概要について 3 図書館の事業について
40.1.22	図書館教養講座(第5回)	県立図書館	第3読書室において 講師 梅宮茂 演題 「大蔵寺と県北地方の古代文化」
40.2.14	読書感想発表県大会	常磐市湯本	常磐市湯本公民館において 発表者 17名
40.3.18	図書館協議会(第4回)	県立図書館	新委員の初回協議会 議長および副議長の選挙 報告および協議事項 1 県立図書館の組織および運営概要について 2 昭和40年度予算について 3 県立図書館奉仕事業について
40.3.26	図書館教養講座(第6回)	県立図書館	第3読書室において 講師 福大教授 庄司吉之助 演題 「福島地方の農民一揆について」

## 第2節 整理事務

図書館における整理事務ほど説明し難く、理解されることの困難な仕事はない。これは1つには「整理」という言葉自体のもつ意味のあいまいさのためであろう。むしろ仕事の内容をよりの確に表現するには「資料」という言葉を使用するほうが理解しやすい。資料の収集、資料の整理、資料の紹介等の内容がとりもなおさず整理事務の仕事なのである。整理業務は地味で、しかも根気のいる仕事で、奉仕業務のような第1線の華やかさはない。しかし、間接的ではあるが、図書館活動を行なううえで最も基本的でゆるがせにできない任務を持っているとの信念のもとに、館内外の多くの理解と援助を得て、本年度は以下のような活動を行なってきた。

なお、本年度は特にここ数年來の懸案であった佐藤文庫(戦争関係の特殊文庫)の冊子目録が発刊されるに至ったため、担当係員は勿論のこと、整理係全体としてもかなり忙しい一年であった。

### 1 資料の収集

図書館活動にあつて、その基礎をなすものが資料であることは論をまたない。しかし、県立図書館には大ざっぱに分けて2つの機能があると考えられる。その1は参考調査のための資料センターとしての機能。もう1つは県下のすべての住民に対して教養・娯楽面で文化生活のための場となる機能である。本年度の資料収集もこの2つの面で十分な図書館活動が行なえるような方向で努力した。資料センターとしての機能のためには、調査・研究にたえるような文献、参考図書などの基本的な資料(基本図書)およびその周辺的一般教養書、地方行政資料を含む郷土資料などを重点的に収集し、全県的なサービス、読書の普及という面から主として館外奉仕が中心となって収集にあたった。なお、ここでは館内用資料についてのべる。

#### (1) 購入図書

昭和39年度の資料購入費予算は館内用175万円、館外用130万円の計305万円である。このうち館内用資料購入費の中からレコード購入予算を除いた165万円が館内用図書購入費であるが、上記の収書方針に従って本年度中に購入した図書は1,942冊、金額にして172万円である。この平均単価は963円となり、昨年度719円、一昨年度677円と比べて非常に高くなっている。本年度は特に蔵書目録外国文学篇の刊行を機会に外国文学関係の図書の収集につとめたが、昭和38年度から始めた職員による館内図書選考委員会の活動も軌道にのり、かなりの成果をあげた。